

aiuu

No. 08 2026



A Magazine All About "Tiles"



素材から居心地をつくる 暮らしながらつくる

ゆったりと流れる東京 荒川。その土手からほどなく歩いた先に一軒の本と道具が並ぶお店「Zelt Bookstore」はある。街の喧騒から離れ、川の流れを汲むように穏やかな時間が流れる環境。その空気に寄り添うように、自分たちの手で空間を育てていく、暮らしと空間づくりが地続きにある実践の場を訪ねた。

気持ちのいい素材を選ぶ

柴山修平さん、伊藤眸さん夫妻が営む「Zelt Bookstore」。普段はそれぞれ内装設計とイラストレーターとそれぞれ仕事をもち2人が、週末になると本屋をひらく。「それまでは賃貸マンションに住んでいたのですが、壁紙ひとつをとっても素材が気になって。自分たちで変えてもいい物件を条件に見つけたのがこの場所でした」元々は職住一体の履き物屋だった空間を、改装できることが魅力の物件だった。柴山さん、伊藤さんも仕事場と住まいを兼ね、暮らし始めた。

時代はちょうどコロナ禍。ステイホームが謳われる中、自宅で過ごす時間は増えたもののやることは山積みだったと柴山さんは振り返る。「屋上に畑をつくり種まきからまずスタートして。1階の解体を進めながら、その奥で暮らすという本当に住みながらつくっていったんです」空間を作っていく中でこだわりは当然ある。とはいえ、予算に限りもある。下地づくりまでは施工に入ってもらい、仕上げは自分たちで行うなど積極的に空間づくりに参加していった。こうした工夫の中で、空間を形作る素材はどのように選ばれていったのだろうか。「なんとなく気持ちいい素材を使いたいというのはありました。例えば天然素材のリノリウムは床や家具に貼りたいな、とか。実際に貼ってすごく気持ちよかったです」素材を選ぶプロセスもまた2人らしいものだった。柴山さんがなんとなくサンプルから2、3種類を選び、伊藤さんがその中から最終的に決定する。そこには想像して

いなかった方向性も当然出てくるが、どれになっても面白いと思えるやわらかな余白が2人の間には流れている。

空間の表情をつくるタイルと目地

この空間の印象をつくる要素のひとつに、黒いタイルがある。「名古屋の仕事で、水野製陶園さんと一緒に働く機会がありました。そこには膨大なサンプルがあって魅力的だった。いつか水野さんのタイルを使いたいと思っていたところ、作れるよって言ってもらったことがきっかけで決めました」当初、柴山さんは艶のあるベージュのサンプルなどを用意していたが、伊藤さんは黒を選んだ。その理由について、伊藤さんはこう話してくれた。「空間を締めるには黒がいいと思ったんです。すごく甘い空間やお洒落っぽい空間にはしたくなかった。でもキレのある黒というより民藝的で土っぽい優しい黒にしてみました」制作は水野製陶園に委ねるかたちで進んでいった。気がついた頃にサンプルが届き、焼いて届けてもらい、タイル出来上がってから目地を選びはじめるという決して急がない時間軸の中で、少しずつ空間が形になっていく。一方、2人の関心はタ

イルそのものの以上に“目地”の方に注目していたという。「普段の設計の仕事から目地ってもうちょっと工夫できないのかなと思っていました。目地で何か表現してみたい、目地が主役になるような境界線を探ってみたくなって。あと単純にジョイントするもの、素材と素材を繋ぐ関係性が好きなんです。」目地の幅は図面と模型づくりを経て吟味し、40mm幅と大らかに設定した。一方、目地の素材はアイディアが湧かず、思考を巡らせていたところブリックモルタルに出会う。「全く知らない近所の石材屋さんに目地の相談に行ったら、出してきた骨材が入った粒度の粗い感じがイメージにぴったりでした」なるべくタイルを切らない割り付けを行い、現場では墨出しだけお願いした。そして自らタイル張り、目地入れを行う。時間はかかるものの、自分たちの手で少しずつ育てていくその姿勢は、制作と暮らしが地続きにつながっていることを教えてくれる。

“緊張しない”空間づくり

素材にこだわる柴山さん、伊藤さんが空間づくりにおいて最も大切にしていることを尋ねた。「素材選びやモノ、空間の作られ方や使われ方まで“健やかさ”を大切にしています。それが訪れる人に伝わり、緊張しない空間に繋がるといいと思います。」過度に洗練されすぎない佇まい、身体がふっとゆるむような空気感。どこまでも大らかな姿勢には、自然体のまま立ち寄れる場所にしたいという2人の美意識がはっきりと表れている。店に並ぶ本や小物、アートにも、その姿勢は一貫している。本は、自分たちが本当に読みたいと思うものを、新刊と既刊を横断しながら選ばれている。思想や趣味が前に出すぎて、説教臭くならないようなバランスが手取りやすく心地よい。「選書は私がその時々でハマるものに準じています。農業にハマっている時は農業、食べ物の際は食関連が多くなる。1人フェアみたいな感じですね。笑 その波にお客さんがなんとなく乗って共感してくれる人が買ってくれているのかな。でも読んだ人の暮らしや行動がほんの少し変わること、手を動かしてみたいなことを思っています」と伊藤さんは話す。オープンし、3年目。今では地域や近所の人々がふらりと立ち寄ることが多くなった。屋号の“ツェルト”は、最小限の道具でありながら空間にもなるテントに由来する。あり合わせのものを工夫しながら場をつくる——そんな二人の態度を、これ以上なく端的に言い表した名前だ。



伊藤 眸さん、柴山 修平さんとシロ



Zelt Bookstore

東京都足立区本木1-19-4 1F 13:00-18:00
<https://ze-it.com/>
 ＊営業日はWEB、SNSをご確認ください。

自然と素材への愛からうまれたタイルテーブル



フィンランドのアルテックとカリフォルニアのヒースセラミックスがコラボレーションした「アルテック+ヒース」のテーブル。木と土、異なる素材を扱いながらも両社に共通する、環境への配慮、美しさ、機能性を兼ね備えたものづくりがデザインにも表れている。

「タイルテーブル」 W1090×D440×H440mm ¥317,900 / アルテック 東京 ☎ 03-6427-6615

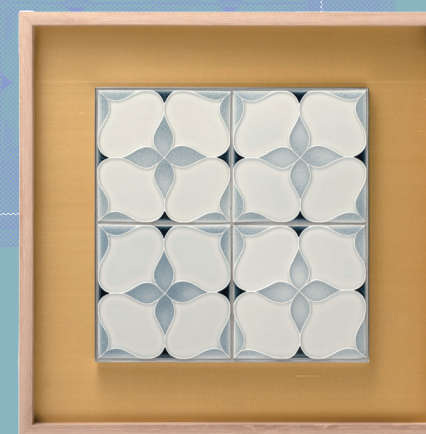
タイル製造の技術を用いて、土の自然の風合いを活かした手仕事からうまれるホームプロダクトブランド「オリベプロダクツ」のアロマディフューザー。エッセンシャルオイルを数滴垂らすと徐々に浸透し、香りが穏やかに空間に広がる。

「クレイ オイルディフューザー」Φ60×H30mm ¥5,280 / 織部製陶株式会社 <https://oliveprod.theshop.jp/>

土をそのまま固めたような素材と楽しむ香り



クラフトタイルの質感を暮らしの一部に



昔ながらの製法で作られるクラフトタイル。一つひとつ異なる表情を持つピースを額装し、手仕事のぬくもりをインテリアとして楽しめる一品に。

「フレームドピケット」 W475×D475×H45mm ¥120,000 / 平田タイル ☎ 06-6532-1284

信楽焼の素朴なぬくもりを楽しむ



レンガを積み上げたような傘立て「ブリック」。信楽焼の土の特性を活かし素朴な表情はそのままに、傘を入れた際の安定感ある佇まいが空間にぬくもりを添える。

「ブリック」φ225×H420mm ¥26,400 / ノタショップ <https://online.nota-and.com/>

立体的なタイルの造形美を、

アートピースへ

革新的なアイデアでデザイン性の高いタイルを生み出すブランド「ムティナ」。釉薬の美しさや立体的な表情が人気のタイルを、そのままベース（花器）として昇華させた。デザインはロナン・フルレック。

「ベースC グロッシー」Φ248×H712mm ¥880,000 / 平田タイル ☎ 06-6532-1284

現代の空間になじむ
やきものプロダクト

やきものやタイルからインスピレーションを得た、暮らしに寄り添う家具やプロダクトをご紹介します。素材がもつ表情、美しさを活かしたデザインは日常にさりげない彩りと心地よさをもたらしてくれるはず。ぜひ素材のやさしい魅力に触れてみてください。

セレクト：インテリアスタイリスト 中田 由美

足元にやわらかな、
タイルという遊び心



整然と並ぶタイルの配置に不規則な凹凸や隙間を生み出し、長さが異なるピンク色のパイルがところどころアクセントに。タイルの硬質な印象とウールの柔らかさの対比がアートピースのような存在感をもたらす。

「スクエア タイル ラグ」 2400×3428mm ¥638,000 / スタジオ・ザ・ブルーボーイ <https://studio-theblueboy.com/>

製造時に出る余剰タイルを粉砕し、リサイクル陶磁器素材を約50%使用したバスアイテムシリーズ。自然な色合いからうまれた柔らかな色味、磁器の上質な質感が魅力だ。

「アップタイル」 ソープディスペンサー φ90×H180mm ¥5,720、タンブラー φ75×H95mm ¥6,050 / ともにメゾンドパンクチュール <https://maison-de-baincouture.com/>



余剰タイルを、上質な洗面アクセサリへ

緻密なプロポーションが生む造形の楽しみ



木製より精度の高いドイツ アンカー社の石積木。基本セットに補充していくことで遊びの可能性が無限に広がる。石の重さからくる存在感、積み重ねた際のパーツがぴったり付くような感覚が楽しい。

「アンカー積木 NO.4」 収納木箱サイズ W175×D250×H45mm 55ピース ¥19,800 / アトリエ ニキティキ 吉祥寺店 ☎ 0422-21-3137

* 価格は全て税込価格となります。



貼り巡る旅 Vol.7

【東京】
清澄白河

東京・江東区の清澄白河は、穏やかな空気感と豊かな緑に恵まれた下町の風情と新しい文化が交錯する街。かつて工場や倉庫が立ち並び、職人や商人が多く暮らした面影を今に残すこのエリアに、90年以上にわたり珪瑯づくりを続けてきた「野田珪瑯」が初の実店舗をオープンしました。空間を手がけたのはPuddle inc. 加藤匡毅さん。空間に込められた想いなどをお聞きました。

— 加藤さん、野田珪瑯の店舗を設計する上でデザインのインスピレーション源となったのは何ですか？

珪瑯は銅板にガラス質を焼き付ける、堅牢さを持ちながらその表情にぬくもりがある素材。その野田珪瑯のもつ手仕事やらかな白の美しさを空間にも感じさせ

ることができたら、と考えました。野田珪瑯は銅板の成型から施釉、焼成まで現在では希少となった全工程を国内で一貫して行なっています。私たちは珪瑯という素材そのものが持つ魅力を建築、空間へと翻訳することから始めました。

— 素材、色彩など選択する際のプロセス

スで大切にしていることや具体的にこだわったポイントを教えてください。

素材が時と共に変化する経過を想像しています。ここは単に製品を見せる場だけでなく、訪れた人が自身の生活と重ね合わせながら生活の場を想像できるように計画しました。そして、素材が年月を重ね



ることで生まれる変化を想像しています。左官やテラゾーといった工業製品のように均質ではなく、職人の手によるわずかな陰影やゆらぎをもつ珪瑯とも親和性の高い手仕事で空間全体を構成しました。特に左官や植栽、店内の柔らかな木目のオーク材などはそうなって欲しいと願っています。

— 床にタイルを採用いただいています。が、セレクトする上で決め手になったのは何ですか？

時と共に変化する素材の良さと別に、上質な風合いや清潔感を持った床材が大切だと思いました。今回のタイル「Beren」は、そのバランスが良く採用しました。

— 設計を通して特に印象に残っている点、興味深かったことは何ですか？

商品が入って初めて空間が活きる、動き出すということを改めて理解したプロジェクトでした。リノベーションなので既存の建物のタイルとも良いマッチングができたのではないかと思います。

— この店舗が、訪れる人や街にとってどのような意義を持つ場所になればよいと思いますか。

清澄白河のまちのひとつの顔になっていって欲しいと願っています。野田珪瑯



のもののづくりと人々の日常をゆるやかにつなぎ、日中はやわらかな木陰のような、夜は行燈のような存在として新たな風景を育てていってほしいですね。

お話を伺った方
加藤匡毅 (かとう・まさき) 一級建築士

設計事務所Puddle代表。その土地で育まれた素材を用い、人の手によってつくられた美しく変化していく空間設計を通じ、そこで過ごす人の居心地良さを探求し続ける。これまで15を超える国で建築・インテリアを設計。主な作品に「DANDELION CHOCOLATE Japan/USA」「TSUCHIYA KABAN Kyoto」「AGNES B, JAPAN Head office」「SANU 2nd Home」などがある。著書「カフェの空間学 世界のデザイン手法」「カフェの設計学 計画とディテール」

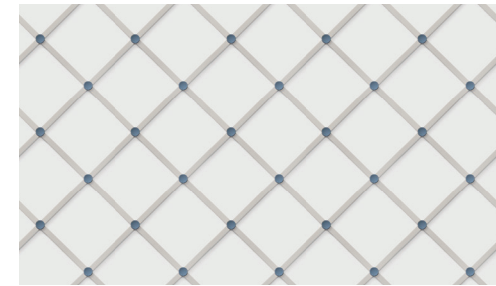
野田珪瑯
12:00-18:00 月・火 定休日
東京都江東区清澄2-3-2 1F 03-6240-3880



ファサード全体はブランドを象徴するホワイトシリーズを彷彿させる白を基調とし、空間そのものがひとつの珪瑯製品のようにまちな行むことを目指した。

今号の表紙タイル

Aria/ Design by
Ronan Bouroullec



“タイルはアート”を掲げるメーカー、イタリア MUTINA社。

革新的なアプローチによって、デザイン性の高いタイルを数多く生み出してきた同社ですが、近年は「Wall Installation (ウォールインスタレーション)」という新たなコンセプトに着目し、タイルの枠を超えた空間表現への挑戦を続けています。

これまでMUTINAが大切にしてきた、素材を追求するデザインとセラミックの美しさ。その価値をさらに発展させ、二次元から三次元へと広がる立体感や繊細な陰影を生み出すことで、建築的なインスタレーションへと昇華させるアイデアが込められています。

ロナン・ブルレックがデザインを手がけた「Aria」は、細い棒状のパーツと小さな円形パーツによって構成されるモジュラースステムです。組み合わせ次第で表情を自在に変化させることができ、壁面に豊かなリズムと奥行きを生み出します。

イタリア語で“空気”を意味する「Aria」。空間に深みとリズムをもたらす開放的なグリッドは、壁の素材や色彩と融合しながら、自由に柔軟な空間表現を創造します。

タイルを単なる仕上げ材としてではなく、建築空間を構成する要素として再定義することで、空間デザインの新しい可能性を提案するプロダクトです。



平田タイル ショールーム

東京 東京都中野区本町1-32-2 ハーモニースクエア1F
Tel 03-5308-1135

名古屋 愛知県名古屋市市中区錦2-20-8 東栄ビル2F
Tel 052-218-3186

大阪 大阪府大阪市西区阿波座1-1-10 1・2F
Tel 06-6532-2002

福岡 福岡県福岡市博多区店屋町1-35
博多三井ビルディング2号館1F
Tel 092-263-5075

営業時間 10:00-17:00 水曜・日曜・祝日定休
営業時間は予告なく変更となる場合がございます。各ショールームへのお電話及びホームページよりご確認ください。

tiles オンラインコンサルティングも承っております
<https://tiles.hirataile.co.jp/>

aiu staff

Director/ Editor * Furukawa Mayuko
Art director/ Designer * So Sachi
Photographer * Morita Yuki
Illustrator * Wakuda Chihito

aiu (あいう)はタイルの母音が名前の由来になっている、タイルと焼きものにまつわる背景を紹介する情報ツールです。

掲載商品のお問い合わせは
各お問い合わせ先へ直接お願いいたします。

[aiu] 発行年月日：2026年7月10日 第8号発行
制作：aiu編集部 発行元：株式会社 平田タイル
大阪市西区阿波座1-1-10 06-6532-1284

